

A N N U A L R E P O R T 2 0 2 5

年 次 報 告 書



## ごあいさつ



公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会会長

### 御手洗 富士夫

当協会は、1990年に開催された「国際花と緑の博覧会」の「自然と人間との共生」という理念を永く継承発展させるため1991年11月1日に設立され、以後、潤いのある豊かな社会の創造に向けて、様々な事業を行ってまいりました。

令和7(2025)年度は、主要事業である「コスモス国際賞」(第32回)の受賞者に、オーストラリア、ニューサウスウェールズ大学生態系科学センター教授のデービッド・アンドリュー・キース博士を選出いたしました。キース博士は、「国際自然保護連合(IUCN)生態系レッドリスト」の重要性に鑑み、国際共同研究を主導し、生態系の消失危険性を評価する画期的な方法の確立に尽力され、さらには、植物と森林火災との関係性についての研究など、地球上の多様な生命の相互作用である「生態系」の研究者として、大きな功績を上げられました。

また、当協会の助成・協働事業、普及啓発・国際交流事業、調査研究・資料収集事業におきましても、有意義な成果をあげることができました。今後も、各事業をさらに充実すべく進めてまいりますので、引き続きのご支援とご協力をお願い申し上げます。

本書は、令和7(2025)年度の当協会の取り組みをまとめたものです。ご一読いただき、各事業の趣旨並びに取り組みについてご理解をいただければ幸いに存じます。

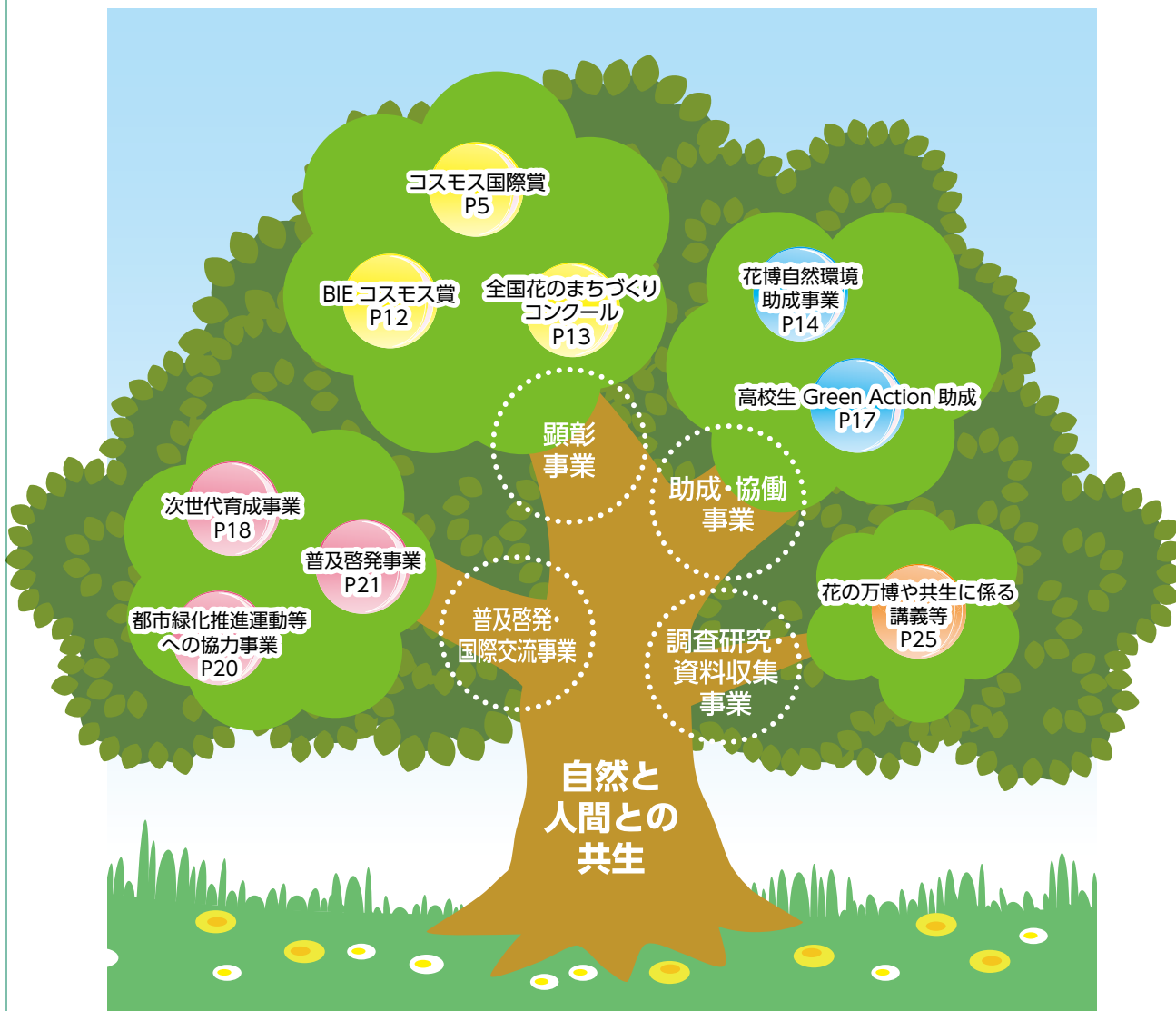
## 天皇皇后両陛下ご接見



2025年コスモス国際賞受賞者キース博士ご夫妻は、天皇皇后両陛下とお会いになった。  
(令和7年10月23日 御所にて)

## 事業概要

公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会は、潤いのある豊かな社会の創造に寄与することを目的として、「自然と人間との共生」という理念の継承・発展につなげる事業を実施しています。



### 設立趣意書

平成2年4月1日から9月30日までの183日間、大阪・鶴見緑地において開催された国際花と緑の博覧会（以下「花の万博」という。）は、多くの人々に花と緑に象徴される命、それをはぐくむ大きな自然の営みに目を向けさせ、新鮮な感動を呼んだ。人間も自然のなかで生きる存在としてとらえ、自然と人間との共生の道をさぐるうとした博覧会のねらいは、ひとまず達成されたものと考えられる。

しかし、こうした理念の下に21世紀に向けて潤いのある豊かな社会を創造していくためには、国をあげてのたゆみない継続した努力が必要とされる。その点火役となった博覧会を一過性に終わらせることなく、その基本理念を継承、発展させ、新しい社会創造の動きに結実させていくことは、われわれ博覧会にたずさわった者の責務であると考えます。

そのため、博覧会にたずさわった関係者の協力を得て、ここに財団法人国際花と緑の博覧会記念協会を設立し、21世紀に向けた潤いのある豊かな社会創造の一助とすることにより永くその責務をはたそうとするものである。

平成3年11月1日

## 顕彰事業

### 1. コスモス国際賞

「自然と人間との共生」という花の万博の理念を継承し、さらに発展させるため、この理念に沿った国内外の優れた研究活動や業績を顕彰する「コスモス国際賞」の2025年(第32回)受賞者の選考を次のとおり実施しました。

**受賞者の選考等** コスモス賞委員会(以下「賞委員会」という。)及びコスモス賞選考専門委員会(以下「選考委員会」という。)を設置し、次の選考作業を行いました。

<2025年(第32回)受賞者の選考・決定等>

- ・第1回、第2回選考委員会(令和7年5月8日、5月19日)
- ・第3回選考委員会(令和7年6月16日)
- ・第2回賞委員会(令和7年6月16日)

2025年受賞候補者にデービッド・アンドリュー・キース博士(ニューサウスウェールズ大学生態系科学センター教授)が選定されました。

- ・第126回理事会(令和7年7月15日)

賞委員長より選考の経緯及び結果が報告され、受賞者として決定しました。また、同日午後、国内外の報道機関に対して記者発表等を実施しました。



2025年(第32回)コスモス国際賞受賞者

デービッド・アンドリュー・キース博士

(ニューサウスウェールズ大学生態系科学センター教授)

植物生態学的研究を基盤に、地球的視野からの生態系の類型化及びIUCN生態系レッドリストの確立に尽力し、その保全方法に大きく貢献した。

2025年(第32回)コスモス国際賞授賞式等の開催 国内外からの賓客及び招待者約420名の参列のもと、厳粛かつ華やかに実施しました。

授賞式

日 時

令和7年10月17日(金) 午後3時～5時

場 所 住友生命いずみホール(大阪市中央区)

出席者 約420名

次 第 主催者紹介

来賓紹介

マーガレット・ポーエン 駐大阪オーストラリア総領事

出口陽一 国土交通省大臣官房審議官

犬塚明伸 農林水産省近畿農政局次長

森岡武一 大阪府副知事

高橋徹 大阪市副市長

主催者挨拶

御手洗富士夫 (公財)国際花と緑の博覧会記念協会会長

授賞理由及び受賞者の紹介

山極壽一 コスモス国際賞賞委員会委員長

賞状、賞金目録贈呈

メダル贈呈

来賓祝辞

石破 茂 内閣総理大臣(代読)

ジャスティン・ヘイハースト 駐日オーストラリア大使(代読)

受賞者挨拶

祝賀演奏

加古隆

祝賀会

日 時 令和7年10月17日(金) 午後5時15分～7時

場 所 ホテルニューオータニ大阪「鳳凰Ⅲ」

出席者 約110名

顕彰事業



2025年  
コスモス国際賞  
受賞記念講演会

2025年受賞者デービッド・アンドリュー・キース博士の研究業績を紹介する講演会を開催しました。池谷和信コスモス国際賞選考専門委員会委員長による賞及び受賞者紹介の後、キース博士によるご講演、その後は、キース博士と古田尚也博士の対談および聴講者との質疑応答が行われました。

日時：令和7年10月21日(火) 午後4時～6時  
場所：東京大学伊藤謝恩ホール(東京都文京区)  
参加者数：約230名

後援：農林水産省、国土交通省、文部科学省、環境省、東京都教育委員会、オーストラリア大使館、日本生態学会

内容(敬称略)：

- ・受賞者紹介  
池谷和信(コスモス国際賞選考専門委員会委員長、国立民族学博物館名誉教授)
- ・受賞記念講演「地球の生態系の保全」  
デービッド・アンドリュー・キース博士
- ・対談

対談者：デービッド・アンドリュー・キース博士  
古田 尚也(大正大学総合学修支援機構教授、IUCN日本リエゾンオフィスコーディネーター)



アンケートより集約

参加者の過半数が初参加である一方、講演および対談の内容については、いずれも約9割が「良かった」または「非常に良かった」と評価しており、高い満足度を得ることができました。また、「生態系やレッドリストに関する理解が深まった」、「環境問題への関心が高まった」といった生態系レッドリストに関する理解の深化や、環境問題への関心の高まりに言及する意見が多く見られ、参加者にとって学びと気づきを得る有意義な機会となったことがわかりました。



コスモス国際賞  
関係動画の制作

2025年(第32回)受賞者の受賞者紹介動画、インタビュー動画、受賞記念講演会のアーカイブ動画を字幕付きで制作し、協会YouTubeチャンネルに掲載しました。



コスモス国際賞  
関係印刷物の  
製作

2025年コスモス国際賞授賞式の案内状発送時に協会事業紹介チラシを同封しました。また、2025年(第32回)受賞者についての業績や授賞理由などをまとめたパンフレット(900部)、2025年の関連行事の内容をまとめた報告書を製作(600部)し関係者に配付しました。



2026年  
(第33回)  
コスモス国際賞  
選考

2026年(第33回)コスモス国際賞の実施に向けて、令和8年1月27日に第1回賞委員会を開催し、国内外約1,900名の推薦人に対し、推薦依頼状を送付しました。

## コスモス国際賞歴代受賞者

当協会の主事業である「コスモス国際賞」は、「自然と人間との共生」という理念の発展に貢献し、「地球生命学」とも呼ぶべき、地球的視点における生命相互の関係性、統合性の本質を解明しようとする研究活動や学術活動を顕彰するために設けられた国際的な顕彰です。

1993年(第1回) 平成5年

ギリアン・フランス 卿  
Sir. Ghillean Prance



英国・王立キュー植物園園長

南米アマゾン地域を中心とする熱帯植物研究を主導し、地球全域の植生を統一データ化する地球植物誌計画を提唱した他、世界の植物学者とネットワークを組んで実現に尽力した。

1994年(第2回) 平成6年  
ジャック・フランソワ・パロー  
(物故)

Dr. Jacques Francois Barrau  
(Deceased)



仏国・パリ国立自然史博物館教授

太平洋の鳥々の自然と人たちの暮らしについて民族生物学的な調査研究を行い、これを基に、人間と食糧をテーマに、全地球的な視点から、ユニークな考察を発表した。

1995年(第3回) 平成7年

吉良龍夫  
(物故)

Dr. KIRA Tatuio  
(Deceased)



日本・大阪市立大学名誉教授

光合成による植物の有機物生産の定量的研究を基に、生態学の新分野となる生産生態学を確立。東南アジア地域の熱帯林生態系の研究で指導的な役割を務めた。

1996年(第4回) 平成8年  
ジョージ・ビールズ・シャラー

Dr. George Beals Schaller



米国・野生生物保護協会科学部長

40年にわたり、世界各地でさまざまな野生動物の生態と行動を研究し、「マウンテンゴリラ・生態と行動」「ラストパンダ」など数多くの著書で全世界に野生動物の実態を知らせた。

1997年(第5回) 平成9年

リチャード・ドーキンス

Dr. Richard Dawkins



英国・オックスフォード大学教授

1976年に出版された著書「利己的な遺伝子」で、生物学の常識をくつがえす大胆な仮説を発表し、生物の進化について新しい見解を提示した。

1998年(第6回) 平成10年

ジャレド・メイスン・ダイヤモンド

Dr. Jared Mason Diamond



米国・カリフォルニア大学ロサンゼルス校教授

医学部で生理学を研究する一方、30年にわたりニューギニアの熱帯調査を行い、これらを基に、人類の歴史的な発展を再構成したユニークな考察を発表した。

1999年(第7回) 平成11年

呉 征鎰(ウー・チェン・イー)

(物故)

Dr. Wu Zheng-Yi  
(Deceased)



中国・中国科学院昆明植物研究所教授・名誉所長

中国を拠点に東アジア地域の植物の調査研究に取り組み、中国全土の植物の種の多様性を網羅する「中国植物志」の編集を主導、刊行した。

2000年(第8回) 平成12年

デービッド・アッテンボロー 卿

Sir David Attenborough



英国・映像プロデューサー

野生生物のドキュメント映像のバイオニアとして、約半世紀にわたって、地球上の野生の動植物の生の姿を、優れた映像で全世界に伝えた。

2001年(第9回) 平成13年

アン・ウィストン・スパーン

Prof. Anne Whiston Spirn



米国・マサチューセッツ工科大学教授

都市と自然は対立するものでなく、周辺の地域環境と調和し、その一部として存在する都市の構築が可能であるとし、都市が自然との調和をはかりながら発展する方策を示した。

2002年(第10回) 平成14年

チャールズ・ダーウィン研究所

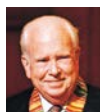
The Charles Darwin Research Station



エクアドル

ガラパゴス諸島の陸上、海域両面にわたる生物と生態系の調査を行い、島の自然を守る直接活動のほか、島の住民への環境教育、島の現状を全世界に伝える出版など、多角的な活動を行った。

2003年(第11回) 平成15年  
ピーター・ハミルトン・レーブン  
(物故)  
Dr. Peter Hamilton Raven  
(Deceased)



米国・ミズーリ植物園園長  
生物多様性の保全を先駆的に行い、地球的な視点で生命の問題を考え、学術と実践両面で自然と人間との共生に貢献した。

2004年(第12回) 平成16年  
フーリャ・カラビアス・リジョ  
Prof. Julia Carabias Lillo



メキシコ・メキシコ国立自治大学教授  
途上国の立場から全地球的な環境問題を考え、フィールドワークとさまざまな学問分野の研究を統合したプログラムを実施し、異なる条件下での困難な課題に優れた成果を挙げた。

2005年(第13回) 平成17年  
ダニエル・ポーリー  
Dr. Daniel Pauly



カナダ・ブリティッシュコロンビア大学水産資源研究所長兼教授  
漁業と海洋生態系の関連を包括的に研究。海洋生態系保全と水産資源の持続的利用を可能にする科学的モデル開発など、海洋生態系と資源研究の分野で優れた業績を収めた。

2006年(第14回) 平成18年  
ラマン・スクマル  
Dr. Raman Sukumar



インド・インド科学研究所生態学センター教授  
ゾウと人間との生態関係や軋轢への対処をテーマとした研究から、生物多様性保護と自然環境の保全全般にわたる多くの提言を行い、かつ実行し、野生生物と人間との共存という分野での先駆的な取り組みを行った。

2007年(第15回) 平成19年  
ジョージナ・メアリー・メイス  
(物故)  
Dr. Georgina Mary Mace  
(Deceased)



英国・ロンドン大学自然環境調査会議個体群生物学研究センター所長兼教授  
絶滅危惧種を特定・分類し科学的な基準を立案すること、および「レッドリスト」の作成において指導的役割を果たし、種の保全、生物多様性保全に貢献する取組みを行なった。

2008年(第16回) 平成20年  
ファン・ヴェン・ホン  
Dr. Phan Nguyen Hong



ベトナム・ハノイ教育大学名誉教授  
戦争や乱開発がマングローブの生態系に壊滅的な打撃を与えたベトナムで、博士はマングローブの科学的、包括的な調査・研究を行い、マングローブ林の再生に大きな成果をあげた。

2009(第17回) 平成21年  
グレッチェン・カーラ・デイリー  
Dr. Gretchen Cara Daily



米国・スタンフォード大学教授  
生物多様性のもつ「生態系サービス」の価値を包括的に捉えて、「国連ミレニアム生態系評価」など国際的な取り組みに貢献するとともに、生態学・経済学を統合し、「自然資本プロジェクト」を実施する等大きな役割を果たした。

2010年(第18回) 平成22年  
エステラ・ベルゲレ・レオポルド  
(物故)  
Dr. Estella Bergere Leopold II  
(Deceased)



米国・ワシントン大学生物学部名誉教授  
花粉学者であり自然保護論者として、博士の父アルド・レオポルド氏(1887-1948)が提唱した「土地倫理」の思想を継承、追求すると共に、アメリカ各地においてこの考えを広げるなど、多大な功績を残した。

2011年(第19回) 平成23年  
海洋生物センサス科学推進委員会  
The Scientific Steering Committee of  
the Census of Marine Life



海洋生物の多様性、分布、生息数についての過去から現在にわたる変化を調査・解析し、そのデータを海洋生物地理学情報システムという統合的データベースに集積することにより、海洋生物の将来を予測することを目指す壮大な国際プロジェクト「海洋生物センサス」を主導した。

2012年(第20回) 平成24年  
エドワード・オズボーン・ウィルソン  
(物故)  
Dr. Edward Osborne Wilson  
(Deceased)



米国・ハーバード大学名誉教授  
アリの自然史および行動生物学の研究分野で卓越した研究業績をあげ、その科学的知見を活かして人間の起源等の研究に尽力した。

2013年(第21回) 平成25年

ロバート・トリート・ペイン  
(物故)

Dr. Robert Treat Paine  
(Deceased)



米国・ワシントン大学名誉教授

生物群集の安定的な維持に捕食者の存在が不可欠なことを、明快な野外実験によって示し、「キーストーン種」という概念を提唱したことにより、生物多様性への理解に大きな影響を与えた。

2014年(第22回) 平成26年

フィリップ・デスコラ

Dr. Philippe Descola



仏国・コレージュ・ド・フランス教授

南米アマゾンに住む先住民アチュアの自然観とその自然と関わる諸活動に焦点を当て、これらの綿密な調査から哲学的な思想へと論を進め、自然と文化を統合的に捉える「自然の人類学」を提唱した。

2015年(第23回) 平成27年

ヨハン・ロックストローム

Dr. Johan Rockström



スウェーデン・ストックホルム・レジリエンス・センター所長

人類が地球システムに与えている圧力が飽和状態に達した時に不可逆的で大きな変化が起こりうるとし、「プラネタリーバウンダリー」を把握することで、壊滅的な変化を回避でき、その限界がどこにあるかを知ることが重要であるということを示した。

2016年(第24回) 平成28年

岩槻 邦男

Dr. IWATSUKI Kunio



日本・東京大学名誉教授 兵庫県立人と自然の博物館名誉館長

地球に存在する多様な生物の相互関係を統合的に解明する研究手法の構築により、シダ類をはじめとする植物系統分類学を発展させ、さらにアジアを中心とする生物多様性の保全に多大な貢献を果たした。

2017年(第25回) 平成29年

ジェーン・グドール

(物故)

Dr. Jane Goodall  
(Deceased)



英国・ジェーン・グドール・インスティテュート創設者

長期的な視点に立った野生チンパンジーの研究を行い、さらにチンパンジーが住む森を保全するための植林活動、現地の住民向けの教育プロジェクト、世界中の若者のための環境教育プログラム「ルーツアンドシューツ」を行った。

2018年(第26回) 平成30年

オギュスタン・ベルク

Dr. Augustin Berque



仏国・フランス国立社会科学高等研究院教授

和辻哲郎の著作「風土」から大きな影響を受け、風土概念をさらに拡充、深化、発展させ、「風土学(mésologie)」と名づけられる新たな学問領域を切り拓き、自然にも主体性があるという「自然の主体性論」を提唱した。

2019年(第27回) 令和元年

スチュアート・L・ピム

Dr. Stuart L. Pimm



米国・デューク大学教授

地球上の生物の食物網の複雑さや種の絶滅速度等についての理論を提唱し、地球規模の生物多様性に関する政策などに大きな影響を与えると共に、生物保全活動を実践する団体を支援した。

2021年(第28回) 令和3年

ピーター・ベルウッド

Dr. Peter Bellwood



英国および豪・オーストラリア国立大学名誉教授

世界的な視野で農耕の拡散を研究し、考古学、言語学、自然人類学の学際的研究による「初期農耕拡散仮説」を提唱し、農耕の起源と初期農耕民の移動・拡散過程を明らかにした。

2022年(第29回) 令和4年

フェリシア・キーシング

Dr. Felicia Keesing



米国・バード大学教授

生物多様性と人獣共通感染症病原体との関係を、実践的な調査研究によって明らかにし、ポストコロナ時代における自然と人間とのあり方に科学的な示唆を与えた。

2023年(第30回) 令和5年

クリスティン・シュレイダー=フレシェット

Dr. Kristin Shrader-Frechette



米国・ノートルダム大学オニール家講座名誉教授

環境問題を考察する際に定量的リスク評価に基づく「環境正義」の概念が重要であることを提唱し、現在の環境問題に対する姿勢に警鐘を鳴らした。

2020年は新型コロナウイルス感染症の影響によりコスモス国際賞の実施を中止した。

2024年(第31回) 令和6年  
ウィリアム・ジェームズ・サザーランド  
Dr. William James Sutherland



英国・ケンブリッジ大学動物学科学研究部長  
「エビデンスに基づいた保全」を提唱し、世界中の膨大な研究論文より情報を集積したウェブサイト構築する等、生物多様性保全のあり方に革新をもたらした。



2025年授賞式

顕彰事業

委員会

コスモス国際賞委員会 令和8年3月31日現在(50音順)

- 委員長 山極 壽一 総合地球環境学研究所所長
- 副委員長 中西 友子 東京大学名誉教授
- 委員 秋道 智彌 山梨県立富士山世界遺産センター所長
- 委員 浅島 誠 帝京大学特任教授
- 委員 池内 了 総合研究大学院大学名誉教授
- 委員 池谷 和信 国立民族学博物館名誉教授
- 委員 白山 義久 京都大学名誉教授
- 委員 西澤 直子 石川県立大学参与
- 委員 林 良博 東京大学名誉教授
- 委員 村上 哲明 兵庫県立人と自然の博物館館長
- 委員 横張 真 東京大学総括プロジェクト機構特任教授
- 委員 鷺谷いづみ 東京大学名誉教授
- 顧問 岩槻 邦男 東京大学名誉教授
- 顧問 尾池 和夫 京都大学名誉教授
- 顧問 岸本 忠三 大阪大学免疫学フロンティア研究センター特任教授
- 顧問 中村 桂子 JT生命誌研究館名誉館長

コスモス国際賞選考委員会 令和8年3月31日現在(50音順)

- 委員長 池谷 和信 国立民族学博物館名誉教授
- 副委員長 佐倉 統 実践女子大学人間社会学部教授
- 委員 上原麻有子 京都大学大学院文学研究科教授
- 委員 沖 大幹 東京大学大学院工学系研究科教授
- 委員 亀山 康子 東京大学大学院新領域創成科学研究科教授
- 委員 深町加津枝 京都大学地球環境学堂准教授
- 委員 シェアマン・ホーア 中央大学理工学部人間総合理工学科学科教授
- 委員 宮下 直 東京大学大学院農学生命科学研究科教授
- 委員 湯本 貴和 京都大学名誉教授
- 委員 横山 潤 山形大学理学部教授

2. BIEコスモス賞

当協会の存在とコスモス国際賞の海外広報のため、BIE（博覧会国際事務局）と当該博覧会協会と実施している「BIEコスモス賞」は、大阪・関西万博の「いのち輝く未来社会のデザイン」というテーマに沿った活動を顕彰しました。令和7年5月24日に万博会場での審査会に参加し、ギニア共和国の「ムソンテックプロジェクト(識字率の低い女性達に適切なデジタル技術ツールを提供する取り組み)」を選考し、10月12日に開催の授賞式にて、賞金2万ユーロを贈呈しました。



### 3. 全国花のまちづくりコンクール

花の万博の成果を「花と緑の国づくり・まちづくり」として発展させるための国民運動「花のまちづくりコンクール(農林水産省大臣・建設大臣(当時)が提唱)」の推進協議会に参画しました。

#### 第35回 (2025年) 全国花の まちづくり コンクール

主 催：花のまちづくりコンクール推進協議会  
(当協会、(公財)日本花の会、(公財)都市緑化機構、全国花みどり協会)

入賞/応募数：79点/924点

表彰式日時：令和7年10月30日(木)午前11時30分～午後2時

場 所：法曹会館(東京都千代田区)

農林水産大臣賞



浦戸諸島「海と花の物語」(宮城県塩竈市)



佐々木 裕哲(和歌山県有田川町)

文部科学大臣賞



伊奈町立小針北小学校(埼玉県伊奈町)

国土交通大臣賞



射水市(富山県射水市)



名塩さくら台景観緑化クラブ(兵庫県西宮市)

#### 第31回 全国花の まちづくり 牧之原大会

主 催：全国花のまちづくり牧之原大会実行委員会、  
花のまちづくりコンクール推進協議会、牧之原市

開 催 日：令和7年5月31日(土)・6月1日(日)

場 所：牧之原市相良総合センターい〜ら  
(静岡県牧之原市)



助成・協働事業

1. 花博自然環境助成事業

花の万博の理念「自然と人間との共生」の継承発展・普及啓発につながる調査研究や活動並びに被災地復興を支援し、潤いのある豊かな社会の創造に寄与することを目的として、助成事業を実施しています。本事業は、平成16年度より一般公募助成として開始しており、これまで540件余の団体を支援しました。

令和7年度  
助成事業

令和7年度は24件の事業に助成しました。

【調査研究】

● 団体名	● 事業名	● 団体所在地	● 事業の概要
神奈川トンボ調査・保全ネットワーク	近年の気候変動が希少トンボ類生息に与える影響調査	神奈川県	近年、気候変動は顕著になり、降雪量の減少、夏場の異常高温や乾燥による湿地や池沼の干上がり、豪雨による出水により、トンボ類の生息も大きな影響を受けるようになってきた。そこで、影響が危惧される絶滅危惧種や北方系種の生息地で「何が起きているか」を科学的データとして収集、影響を評価し、今後の保全に繋げる。
日台里山交流会議	日台里山イノベーションの研究(その3)	京都府	2023,24年度に引き続き「里山とともに生きる社会」の在り方を探る。23年度には台湾で、24年度には日本(関西地方)でシンポジウムとフィールドワークを行った。25年度には若手の研究者や学生を交えて、台湾の農山村部と都市部における自然共生のあり方を調査し、人口減少や気候変動に対応する社会を構想する。
NPO法人日本高山植物保護協会	絶滅危惧種アンドンマユミの探索と生育域外保全	山梨県	世界で檜枝岐村と北朝鮮のみの分布で、檜枝岐村での野生個体の生存が不明である、アンドンマユミの自生地の再発見、および26個体しか存在しない栽培個体の生育域外保全、さらにこれらのDNAによる遺伝的多様性の解析および至適栽培方法の確立と増殖。
特定非営利活動法人山の自然学クラブ	伝統と文化継承を目指した「お祭りの森づくり」	東京都	能登半島で受け継がれてきたキリコ祭りに使われる様々な植物を利用した森づくり活動のための調査と活動。道具や燃料に使用される、能登らしい植物を地域の方々と採取/育成し地域性種苗による森づくりを行うと共に周辺海岸、屋敷林の整備や自然再生を企画する。体験会や実習も同時に行い、記録して研修/PR用に公開する。

【活動・行事】

● 団体名	● 事業名	● 団体所在地	● 事業の概要
公益財団法人阿蘇グリーンストック	草原性の絶滅の危機にある植物の生育地保全活動	熊本県	担い手不足等で草原の維持管理の存続が危ぶまっている草原において採草・草焼き等の適切な管理を実地することによって絶滅の危機にある植物(マツモトセンノウ・オキナグサ・サギソウ)の生育地を保全する。
生駒山昆虫観察の会	親子で行う生物豊かな森づくり	奈良県	3年計画の中間年として、冬季に森の環境整備を行います。生駒山の潜在植生と生態系を考え、落ち葉の集積場、朽木溜まり、池の泥出し等の里山的管理手法を行い、ハビタットを形成し、多様で生き物が豊かな森を親子参加型で整備する共に生き物観察を行います。また、これにより夏の観察会の充実にもつなげます。
NPO法人伊豆未来塾	南伊豆町漁師の森づくり	静岡県	南伊豆町は、かつては農・漁・林業の一次産業が主体であったが、山は放置され、農業は耕作放棄地が増え里山の荒廃が進んでいる。磯焼けが原因の漁獲量の減少も著しい。海を豊かにするのは山の森だという仮定のもとに荒れた山を整備し落葉紅葉樹を植えることで川の浄化や海の豊かさを取り戻す活動を行なっている。
伊吹くらしのやくそう倶楽部	生物調査・観察イベントによる復元棚田の活動推進事業	滋賀県	復元した棚田では農業を一切使用せず、自生する薬草類にも配慮した農地管理を行っています。しかし、復元効果を把握する上で重要な水生生物やポリネーターの把握が遅れています。そこで、これらを対象に調査と観察イベントを開催し、復元効果の把握と普及啓発による棚田継承を推進します。
公益社団法人園芸文化協会	国際園芸博共創セミナー「園芸文化を育んだ花」	東京都	「2027年国際園芸博覧会」の開催を機に、私たちの暮らしや文化は花とも育まれ、植物により人々が結びつき、豊かで幸せな社会を築いてきたことを伝え、花ある心身豊かで健康な暮らしを未来につなげることを目的に、博覧会協会や花緑団体とも連携し、園芸文化を題材としたセミナーを開催する。
かたつむりミュージアム・ムラセン館	かたつむりミュージアム・ラセン館の普及啓発活動	京都府	国内外陸産貝類の生体再現模型の制作を拡充し、ラセン館における常設展示、小学校への出張授業をはじめ、各種団体等でのレクチャーに活用し、生物多様性の意義を陸産貝類(カタツムリの仲間)を通して分かりやすく理解してもらう。

公益財団法人金沢子ども科学財団	角間の里山自然探検	石川県	小学3年～6年生を対象に、金沢大学が地域との交流拠点として設立した「角間の里」周辺を探検し、季節に応じた動植物の観察活動を行い、里山の暮らしや自然との共生について学ぶ。
特定非営利活動法人京おとくに・街おこしネットワーク	「京都西山」緑の魅力発信整備計画	京都府	「京都西山」は山奥にあり、歴史ある柳谷観音を訪ねる人も少なかったが、京都市内がインバウンドの影響で混雑し、静かな緑の京都として西山地域が知られるようになってきた。17年間西山地域の緑化事業に取り組み、西山古道と陽光桜苑を開発し令和6年度は歩道緑化で日本道路協会より道路功労者賞を受賞した。
特定非営利活動法人グラウンドワーク三島	世界・日本の宝「水の山・富士山」の湧水を調べよう！	静岡県	開発行為の増加による湧水の減少や枯渇、水質悪化等の環境問題を抱える富士山麓の湧水地において、その実態調査や湧水地情報の可視化・発信、保全人材の育成を通して、富士山麓の環境監視をより強固なものとするべく、昨年に引き続き未調査箇所を調べ、世界文化遺産に恥じない富士山の環境保全を図る。
特定非営利活動法人樹木研究会こうべ	木のお医者さんと学ぶ「樹木の生き方と人との関わり」	兵庫県	樹木診断と樹勢回復、樹病の予防や保護育成に携わる樹木医が、その知識や技能を環境教育プログラムに変換し、現代の余暇も含めた生活様式に沿った形で持続可能な「里山林づくり」に取り組む。
一般社団法人自然再生と自然保護区のための基金	谷まるごと里のいきもの自然保護区プロジェクト	奈良県	当該地域で4年前から確認できなくなっている絶滅危惧種タガメ等の希少な水生生物の生息適地を拡大するため放棄水田を湿地化する取組みを加速する。また、これらの主な生息地と思われる近隣の営農田において、地元農家と共同で都市住民向けの生物調査イベントを行うことにより水田の生物多様性と維持を訴える。
特定非営利活動法人白神自然学校一ツ森校	白神山地の水辺の生きもの調査観察活動	青森県	白神山地のブナの森の豊かさを核心部分に源流部を持つ赤石川で川に棲む水生昆虫や魚たちの生態調査を行い、ブナの森から流れた水が、川を伝わり、海に流れる循環の仕組みと、その水に棲む生き物調査を通して、広葉樹の森の持つ豊かな水が、生息域に与える影響を観察する。
公益社団法人日本山岳会高尾の森づくりの会	広葉樹の植栽及び食害防止策設置事業	東京都	過去に皆伐されたが手入れされていない八王子市高尾山山系の板当国有林を対象に、当会は東京神奈川森林管理署と5年間の契約を締結し、広葉樹と針葉樹が混在する豊かな森林を復活させるため、森づくり活動を行うと共に植樹祭を開催し、植樹と食害対策を行う。
つくし野ビオトーププロジェクト	地域で親子が生物多様性を体験的に学ぶ環境学習活動	東京都	「命」をキーワードに、年間プログラムで身の回りの環境体験や作物づくりを通して、自然との共生を「体験的環境学習」として学ぶ。生物多様性・生態系サービス・SDGsに配慮。参加者は3歳児から小学校～大学生までの子どもと親が中心。未就学児の参加者が急増し半数。地域住民主催で19年目の活動を継続・実施予定。
奈良・人と自然の会	自然環境教育イベント(自然観察・農事体験・植樹)	奈良県	都会の近くにある里山の特性を活かし、里山保全活動を進める中で近隣地域の小学生と保護者に、貴重な自然環境を生かした観察や散策、無農薬栽培の農事体験、椎茸原木菌打ち、コナラの苗木植樹などを通して、実体験としての里山の自然と親しむ機会を提供する。
公益社団法人日本植物園協会	日本の植物遺産 伝統園芸と植物園	東京都	日本植物園協会60周年記念事業として、長い歴史を有し、日本独自の発展を遂げた伝統園芸植物やその文化的な背景を保全する「日本植物園協会ナショナルコレクション」を紹介するシンポジウムを開催することで、未来に向けての貴重な植物の保全や後代への継承方法の提案を行う。
庭じかん	花バスケットで住民が集う明るい景観の町中空間を作る	秋田県	地域住民と一緒に花や緑のハンギングバスケットを制作し、それらを地域のゴミステーションや公共施設、商店等の人が集う場所に設置する。さらに地域住民が協力して管理することで花や緑のある明るい景観づくりや、ハンギングバスケットの花や緑の植物を介したコミュニケーションの機会を広げ、心豊かな生活につなげる。
特定非営利活動法人ひとととりデザイン研究所	京都 五山送り火の伝統の継承とアカマツ林の再生	京都府	京都を代表する伝統行事の1つである五山送り火の松割木の材料となるアカマツを再生し、人の輪を広げる事業。
福興浜団	菜の花迷路一般開放と菜の花畑整備	福島県	東日本大震災による津波で全て流された南相馬市原町区菅浜地区に菜の花畑を造成し、そこに迷路を作り4～5月に一般開放する。菜の花迷路には親子連れからお年寄りまで、市内はもちろん県内外から多くの人に訪れてもらい、楽しみ、笑顔になってもらうとともに、津波被害を受けた地区の現在の様子を見て、知ってもらおう。
特定非営利活動法人みどり環境ネットワーク！	光が丘公園生き物調査と次世代育成事業	東京都	身近にある豊かなみどりを後世に残すこと、そのためのネットワークを作ることを目的に、都立光が丘公園で①自然環境教育、②みどり環境の普及、③公園緑地の活用、④みどり環境資産リサイクル等の活動を行ってきた。活動メンバーが円熟期を迎えた今、同公園の自然とその情報を残すために次世代の育成事業を展開している。

助成・協働  
事業



特定非営利活動法人山の自然学クラブ



特定非営利活動法人京おとくに・街おこしネットワーク



特定非営利活動法人樹木研究会こうべ



一般社団法人自然再生と自然保護区のための基金



特定非営利活動法人白神自然学校一ツ森校



特定非営利活動法人みどり環境ネットワーク！

委員会

助成事業審査委員会委員 令和8年3月31日現在(50音順)

- 委員長 林 孝洋 元近畿大学農学部農業生産科学科教授
- 副委員長 橋本佳延 兵庫県立人と自然の博物館主任研究員
- 委員 梶木典子 神戸女子大学家政学部家政学科教授
- 委員 香坂 玲 東京大学大学院農学生命科学研究科教授
- 委員 田中晃代 近畿大学総合社会学部総合社会学科教授
- 委員 永田 萌 イラストレーター・絵本作家

令和8年度  
助成対象の決定

令和8年度の助成事業を決定しました。  
 公募期間：令和7年7月15日(火)～8月25日(月)  
 審査期間：令和7年10月～令和8年2月  
 申請53件を助成事業審査会にて慎重審議の結果として、25件を助成対象として理事長に答申され、1月14日決定されました。また、この内容は第128回理事会にて報告しました。



## 2. 高校生Green Action助成

将来の助成団体を育むため、近隣地域における緑化や花壇づくり、花や緑に関わる文化の発展及び交流、自然保全等に寄与する活動を行う高校生の活動(部・同好会等)に対し、助成を実施しました。

公募期間：令和7年5月31日(金)～6月30日(月)

審査期間：令和7年7月

審査結果として、対象10件を決定しました。

● 学校名	● 部活動等団体名	● 活動名	● 活動の概要
京都府立亀岡高等学校	自然科学部	亀岡の水環境を未来へつなぐ	国の特別天然記念物に指定されているオオサンショウウオの調査観察会に参加し、専門家と共に川に入り、ボランティアスタッフとして活動しました。参加している小学生をリードしながら、生息場所の調査と個体の観察を行いました。また、古世親水公園、南郷池で水質調査を毎月2回行いました。この研究活動を発展させて、京都府高等学校総合文化祭に登壇する予定です。
石川県立七尾特別支援学校 珠洲分校	高等部	すず花ノ道プロジェクト	能登半島地震および奥能登豪雨災害の影響により、仮設校舎に引っ越ししました。仮設校舎は仮設住宅区域にも接しており「花で癒しを。復興を。」をテーマに、学校や地域の人たちが被災の痛みを癒し、復興の糧となることを願って花を育てる活動を始めました。活動の一番の成果は、生徒や職員に限らず、地域の人たちの癒しや復興へのエネルギーにつながったことです。
京都府立木津高等学校	科学部	木津高水族館	木津川支流で生物採集をしました。採集した生物は種類毎に分けてそれぞれの水槽で飼育をし、毎日の餌やりや週に1度的水槽掃除をすることで水質が悪化しないように心掛けました。木津高水族館の開催にあたってはチラシを制作し、京都府南部の小・中学校、支援学校や、木津川市役所など近隣の公共施設に掲示し、木津駅周辺でチラシ配りも行いました。600名に来場いただきました。
京都府立須知高等学校	園芸作物部(草花育種部門)	花いっぱいプロジェクト(京丹波町役場)	花いっぱいプロジェクトは、地元のごども園、福祉施設、町役場に向いて地域と学校を花で結び取組で、今年度で6年目を迎え、200名以上の方と取り組みました。特に町役場では、役場正面入口に本校占有スペースを頂き、本校で育成した季節折々の花を植花しています。来庁者や職員の方から「いつもきれいに管理してくれてありがとう」と声をかけていただいたことがやがやがに繋がりました。
大阪府立泉北高等学校	サイエンス部	自然共生型スクールヤードプロジェクト	校内を整備し、植物や野菜、地元名産の泉北レモンなどを育てました。また、古着を活用した桜のクビアカツヤカミキリ対策でも一定の成果を得ました。加えて、雨水利用による持続可能なビオトープ整備や川の水質調査・外来生物調査を実施し、「ビオトープの再生」「石津川の生態系の調査を通じた外来種へのアプローチ」として成果発表を行いました。
京都府立鴨沂高等学校	鴨沂高校Q活動チーム	綿花プロジェクト 落葉堆肥プロジェクト	落葉堆肥プロジェクトでは、京都御所および学校周辺の落葉で堆肥・腐葉土を作成し、校内の植物栽培に利用しました。落葉を資源として捉え、微生物による分解・発酵の過程を観察し、資源循環について学びました。綿花プロジェクトでは「京木綿プロジェクト」に賛同し、綿花栽培に取り組みました。綿花の生育過程を観察するとともに、環境問題やフェアトレードなどについても考えました。
京都府立福知山高等学校 三和分校	農業クラブ	ビューティフルウィンドウズ活動	本活動は三和駐在所、三和地域安全・安心サポートネットワーク、三和学園と連携実施しています。地域をきれいにすることで地域の防犯につなげるという意味を活動名にこめています。今年度はハボタンの定植とチューリップの球根の植付けに加え、花壇の土壌改良も試み、経過観察中です。地域内で使用されていなかった花壇に植栽を行い、景観向上と防犯意識の向上に貢献しました。
兵庫県立有馬高等学校	農業クラブ フラワーアレンジメント部	資格取得・地域イベントでのフラワーアレンジメント体験の運営、各種大会・コンテストへの出場	今年度フラワー装飾技能士検定試験において、全員が合格することができました。多様な課題に対応できるよう、日々練習を積み重ね、その努力の成果をしっかりと発揮しました。地域イベントでは、来場者に楽しんでもらえるよう、事前に材料の扱い方やデザインの工夫、説明の仕方などを繰り返し練習しました。たくさんの方々からフラワーアレンジメントの楽しさを伝えることができました。
京都府立農芸高等学校	草花コース	ペットボトルキャップをリサイクルしたプランターによる緑化推進	本校と亀岡市、(公財)環境かめおか、近隣宿泊施設との連携活動「めぐる・わプロジェクト」の一環として、ペットボトルキャップをリサイクルしたプランターの作成に取り組みました。校内や連携先に呼びかけ、集めたキャップで作成しました。「クリーンかめおかフェスティバル」でプランターを用いた草花の植え付け体験ワークショップも行いました。地域の緑化を推進することができました。
兵庫県立夢野台高等学校	華道部	華道部による文化活動	華道部員が生けた花を近隣施設へ贈り、飾っていただきました。施設利用者の方々がとても喜んでくださり、生花に興味を持ってくださいました。できあがった作品だけでなく、生花のパフォーマンスも見てもらえるように工夫し、施設利用者の方とコミュニケーションを取りながら活動することを心がけました。

普及啓発・  
国際交流事業

1. 次世代育成事業

花の万博の理念継承発展のため、講師派遣型セミナーを始め、漫画読本や動画による事業展開を図りました。

小学校講師派遣

協会に関係する多くの科学者や知識人を小学校に派遣し、自然との関わり、自然やいのちの大切さ、ひいては地球環境の大切さを学習し「自然と人間との共生」をいう花の万博の理念の継承・発展に資することを目的としています。

令和7年度は15校で講義を行いました。

●実施日	●実施校および参加者	●講義形態	●テーマ	●講師
令和7年6月12日	富田林市立向陽台小学校 3-4年生 101名	対面	昆虫の体のしくみと生態について	中谷 憲一(昆虫写真家)
6月17日	箕面自由学園 3-4年生 57名	対面	昆虫の体のしくみと生態について	中谷 憲一
6月30日	大阪市立長居小学校 4年生 108名	対面	植物のかたちとはたらき	渋谷 俊夫(大阪公立大学教授)
7月3日	大阪市立浪速小学校 4年生 82名	対面	植物のかたちとはたらき	渋谷 俊夫
7月8日	大阪市立十三小学校 4-6年生 80名	対面	動物の命の不思議	長瀬 健二郎(天王寺動物園元園長)
7月16日	大阪市立金塚小学校 6年生 25名	対面	野生動物がすむ森と草原	前迫 ゆり(奈良佐保短期大学副学長)
8月26日	大阪市立北恩加島小学校 3年生 73名	対面	昆虫の体のしくみと生態について	中谷 憲一
8月27日	大阪市立晴明丘南小学校 5年生 46名	対面	砂漠の水がめスイカ	池谷 和信(国立民族学博物館名誉教授)
9月9日	大阪市立鶴橋小学校 5年生 30名	対面	カタツムリの不思議な世界	河野 甲(かたつむりミュージアムラセン館代表)
9月16日	東大阪市教育センターふれあいルーム 3-6年生 15名	対面	植物のかたちとはたらき	渋谷 俊夫
10月27日	大阪市立放出小学校 4年生 90名	対面	動物の命の不思議	長瀬 健二郎
11月7日	泉佐野市立第二小学校 4年生 93名	対面	植物のかたちとはたらき	渋谷 俊夫
11月10日	大阪市立九条北小学校 5年生 46名	対面	野生動物がすむ森と草原	前迫 ゆり
12月1日	豊中市立泉丘小学校 4年生 105名	対面	動物の命の不思議	長瀬 健二郎
12月8日	八尾市立西山本小学校 5-6年生 101名	対面	野生動物がすむ森と草原	前迫 ゆり



アンケートより

- ・なかなかお話をきく機会のない方と関わることができ、児童も意欲的に参加することができました。標本を持参していただいたことで、より話に引き込まれたように感じました。
- ・対象となる知識だけでなく、それに関わっている人との経験も織り交ぜて講義していただけたのが新鮮でした。
- ・内容も分かりやすく、児童の興味・関心をもたせるお話でとても良かったです。
- ・昆虫のからだのつくりの理解が深まるとともに、「昆虫ではない虫は何なのか」という疑問を持つ子がたくさん出てきました。
- ・自然や環境、SDGsについての学習と取り組みをおこなっているので興味深く聞けました。熊被害についてなどのタイムリーな内容もあり、関心をもちました。

花博チャンネル  
【青少年向け  
環境授業】

小学生等の次世代を対象に講義動画を制作・公開しています。あわせて、コスモス国際賞受賞者や過去シンポジウムの動画への閲覧機会を広げ、協会の認知向上と理念の浸透を図ります。

『ウミガメの生態からみた環境問題』

米川弥寿代(ウミガメネットワーク三重会長)

ウミガメの生態や産卵の仕組み、その特徴を解説すると共に、砂浜減少や光害、海洋ごみなどの問題を紹介します。人の行動が海洋環境の保全につながることを伝える講義です。



『次世代につなぐ山守の仕事』

中井章太(吉野町長、中神木材代表)

吉野林業の歴史や山守の役割を解説し、木を育て活かす循環の大切さと、森林が人の暮らしや環境保全に果たす重要な役割を伝える講義です。



『製材所の仕事』

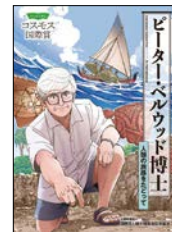
石橋輝一(吉野中央木材(株)社長)

山で育ったスギやヒノキが、原木市場での仕入れから製材・乾燥を経て建材になるまでの流れを解説。木の特徴や品質の違い、その魅力と大切さを学ぶ講義です。



受賞者漫画読本

受賞者漫画読本は、若年層や科学・環境問題に関心の少ない層にコスモス国際賞および受賞者の業績について学習する機会を拡充を図ることを目的としたもので、令和7年度は岩槻邦男博士(2016年受賞者)、ピーター・ベルウッド博士(2021年受賞者)の読本を刊行しました。また、ジャレド・ダイヤモンド博士(1998年受賞者)、フィリップ・デスコラ博士(2014年受賞者)から制作許諾をいただき、資料の収集およびマンガシナリオの制作を進めました。



©えのきろうちょう

©山下 茜

受賞者漫画読本  
寄贈プログラム

子どもたちの学びと読書環境の充実を目的として、全国の中学校、高等学校およびそれに準ずる教育機関を募集しました。令和7年度は46校・施設へ過年度製作のラマン・スクマール博士(2006年受賞者)、ギリアン・プランズ卿(1993年受賞者)、ピーター・ハミルトン・レーブン博士(2003年受賞者)の寄贈を実施しました。また、シリーズ紹介チラシの作製・配布も行いました。



アンケートより

- ・本を購入できる予算が少なく伝記も少なかったので、とても感謝しております。
- ・20～30ページほどのマンガの冊子であることから、短時間で気軽に読みやすい。
- ・中高生にとって、ほとんど知られていない内容ではあるが、身の回りの自然や自分たちの生活に関わることであり、興味・関心を抱きやすく、問題意識を持ちやすい。
- ・コスモス国際賞の存在を初めて知りました。生徒たちにとって社会に貢献する将来像を考える良いきっかけになるのではないかと思います。
- ・一人ひとりが自然環境を守るために人生をかけていることを理解できたと思います。美しくわかりやすい本をありがとうございました。

普及啓発・  
国際交流事業

第3回  
全国高校生  
「地域の自然」  
甲子園  
(通称：  
ネイチャー甲子園)

ネイチャー甲子園は、全国の高校生が身近な自然や生きもの、それに関わりあって生きる人々を、動画撮影や調査によって紹介し、自然や文化への関心、郷土愛の向上を目的とするものです。令和7年度は「動画クリエイイト部門」「生きもの調査部門」の2部門で、それぞれ入賞校を選出しました。

主催：当協会、(株)地域環境計画

協賛：キヤノン(株)

後援：文部科学省、環境省

実施期間：

エントリー期間：令和7年4月15日(火)～11月28日(金)

決勝大会：令和8年2月8日(日) 花博記念ホール(大阪市鶴見区)

両部門の応募数および上位入賞校(グループ名)：

- (1)動画クリエイイト部門 応募40グループ  
 グランプリ 熊本県立松橋高等学校「サイエンス部」  
 準グランプリ 長崎県立上五島高等学校「電気情報科」  
 長野県木曾青峰高等学校「里山同好会」
- (2)生きもの調査部門 応募51グループ  
 1位：沖縄工業高等専門学校「沖縄高専」  
 2位：佐賀県立致遠館高等学校「致遠館」  
 3位：東京都立日野高等学校「都立日野高校科学部」

動画クリエイイト部門上位3校 概要：

グランプリ：熊本県立松橋高等学校「サイエンス部」

【動画タイトル】ムツゴロウの今と昔 ～自然が伝えるメッセージ～

学校の横を流れる大野川でムツゴロウと出会ったことをきっかけに、60年前・30年前の調査資料を手がかりに現在の生息状況を比較することにした。今年の夏休み、干潟での調査を進めた結果、ムツゴロウの分布が大きく減少している現実が明らかになった。干拓や護岸工事、防除シートなど、人の手による環境の変化が影響していると考えられた。しかし一方で、30年前には確認されていなかった上流域で新たな生息が見つかり、自然がまだ力を残していることも実感した。これからムツゴロウの姿を追い続け、自然と人間の共生を未来につなげていきたい。

準グランプリ：長崎県立上五島高等学校「電気情報科」

【動画タイトル】田舎暮らしが人をつくる

田舎暮らしを体験し、高校生として感じた想いを動画にまとめました。「ひろんだ村」で農のある生活に触れ、食物のありがたさや生産の苦労を実感しました。不便に思える環境でも、基礎を学ぶことで生きる知恵や工夫、環境への配慮に取り組む楽しさを知りました。異常気象の影響は他人ごとではなく、これから生きる私たちの課題です。伝統には変えるべきものと守るべきものがあり、弱さを知ることで強さを築けると感じました。自然と共に生きる豊かさを知った私たちは、成長して島の力になりたいと思っています。自然と共存する命の輝きを感じていただければ幸いです。

準グランプリ：長野県木曾青峰高等学校「里山同好会」

【動画タイトル】木曾探検ヘレツゴー ～里山の生き物を求めて～

木曾は長野県西南部に位置し、標高3000mを超える嶽山のふもとに広がる里山環境です。ここには人々の生活があり、その生活は、かつては自然環境と直結していました。しかし、近年では、真の里山といえる環境はなくなってしまったかのようです。インフラが整い、人の生活が里山だけでは完結しなくなりました。私たちは里山を必要としなくなったのでしょうか。人の生活が、環境を多様化し、その環境の多様さが生物の多様性に繋がっている…。そのような理想的な里山はもう存在しないのでしょうか？里山同好会では、その問いを、楽しみながら深める活動をしています。

審査員

審査員長 前迫 ゆり 奈良佐保短期大学教授・副学長、奈良女子大学共生科学センター協力研究員

審査員 平 匠子 日本放送協会理事・大阪放送局長

審査員 井田 徹治 共同通信社編集委員

審査員 中条 太一 ネイチャービデオグラフィアー



2. 都市緑化推進運動等への協力事業

都市緑化推進運動協力会に参画し、市民の都市緑化意識の高揚を目的に開催する「春季における都市緑化推進運動」(4月1日～6月30日)、「都市緑化月間」(10月1日～10月31日)、中に開催された「都市緑化キャンペーン2024」など、都市における緑の保全・創出や都市公園、街路樹の整備等を推進し、緑豊かな美しいまちづくりの展開に支援しました。また、10月31(金)に東京都港区の日本消防会館(ニッショーホール)で開催された「ひろげよう 育てよう みどりの都市」全国大会開催について、協力を行いました。



### 3. 普及啓発事業

花の万博が開催された大阪において、理念の継承発展・普及啓発に関する事業を地元公共団体及び関連団体と協働し、実施しました。

#### おおさか都市 緑化フェア 2025

花と緑あふれる豊かなまちづくりを進め、都市緑化に関する府民意識の高揚と知識の普及を図ることを目的に開催されている本フェアに参画しました。

開催日：令和7年5月25日(日)

場 所：大阪府服部緑地 西中央広場 周辺

来場者：約36,000人(開催当日の服部緑地全体来園者数)

主 催：当協会、大阪府、大和リース株式会社(服部緑地スマイルパートナーズ 代表企業)



#### みどりの まちづくり賞 (大阪ランドスケープ賞)

緑によるまちづくりや、市民の花やみどりに関する知識、技術力の向上を図ることを目的とした第14回みどりのまちづくり賞に参画し、花博記念協会会長賞等を授与しました。

募集期間：令和7年7月1日から9月15日

入賞/応募数：10点/24点

表彰式・講評会

開催日：令和8年1月22日(木)

場 所：大阪歴史博物館「講堂」(大阪市中央区)

来場者：約100名

主 催：当協会、大阪府、(一社)ランドスケープコンサルタンツ協会関西支部



2025 みどりのまちづくり賞、花博記念協会会長賞  
ランドスケープデザイン部門「シーバspark」



表彰式

#### はならんまん 2025

大阪市民の花や緑のまちづくりへの関心を高め、花と緑を育てる伝統や文化への理解を促すとともに、花緑関連業界の交流と活性化を目的に開催された本事業に参画しました。

開催日：令和7年11月1日(土)、2日(日)

場 所：花博記念公園鶴見緑地(大阪市鶴見区)

来場者：約49,000名(開催当日の鶴見緑地全体来園者数)

主 催：当協会、大阪市



普及啓発・  
国際交流事業

第4回  
自然と人間との  
共生フォーラム  
都市生態系  
～都市に生息  
する生きもの  
たち～

(公財)国際花と緑の博覧会記念協会、(公社)日本動物園水族館協会、(公社)日本植物園協会の3団体がそれぞれの特性を生かし、地球環境問題にアプローチするものです。  
令和7年度はその第4回目を実施しました。

趣 旨：多くの人々が暮らす都市は、一見すると生物多様性が乏しいように思われがちだが、実際には、公園や農地、河川には、多様な生きものが息づく特殊な生態系が存在し、人々の生活、産業、文化と結びついている。今回はこうした“まちの中の自然”にスポットを当て、都市における自然と人間との関わりについて情報を発信する。

日 時：令和8年3月10日(木) 午後2時～4時

※オンライン配信(Zoomウェビナー)により実施

主 催：当協会、(公社)日本動物園水族館協会、(公社)日本植物園協会

参加者：約300名

次 第：主催者挨拶 片山博昭 (公財)国際花と緑の博覧会記念協会専務理事  
基調講演

「都市の自然を問いなおす」

横張真 東京大学総括プロジェクト機構特任教授

プレゼンテーション

「ミツバチが都市(まち)の生態系を豊かにする」

藤本裕昭 NPO法人梅田ミツバチプロジェクト副理事長

「動物園の森で暮らす生き物」

先崎優 横浜市立金沢動物園飼育展示係

「都市における社寺林の役割」

名波哲 大阪公立大学附属植物園園長

パネルディスカッション

パネリスト 上記プレゼンテーション発表者3名

コーディネーター 前迫ゆり 奈良佐保短期大学教授・副学長、

奈良女子大学共生科学センター協力研究員



アンケートより

- ・今回のセミナーを受けて、在来種・外来種について改めて考える機会になりました。人の手によって都市環境が大きく変化している中で、単純に在来種が良く、外来種が悪いと分けることには難しさがあると感じました。一方で、そのような環境だからこそ、地域らしさや生物多様性を守る視点も大切であり、理想だけでなく現実的な管理とのバランスが必要だと学びました。
- ・講演であったように昔と植物の咲く時期、場所が変わっており造園業者としては気になる問題である。話を聞き、まさに気温と場所の概念を問う必要がある問題だと感じた。
- ・都市に特化していることが興味深く多彩な動植物が存在することをあらためて認識しました。インクルーシブな視点は、人との関わり合いから、ということも納得しました。
- ・造園系の研究者と、生物系の研究者の視点の違いが面白かったです。また、生物系の方達が指摘されていた情報発信の重要性・モニタリング継続の重要性は勉強になりました。
- ・公園管理に携わる者として、気候変動下での植栽種の選定について、また人の立入りがある程度制限される施設等での生物調査の有用性について、考えることができました。一個人としては、都会のいきものや生態系にいかに関与を与えることができるかという視点を改めて持ちたいと思いました。

第2回  
「人・自然・生命」  
シンポジウム  
日本人の忘れ物  
～日本人の  
自然観～

2027年に日本で37年ぶりの大国際園芸博覧会が横浜で開催されることを機に、その機運喚起と「自然と人間との共生」の理念の浸透を図るため、4回シリーズの「人・自然・生命」シンポジウムを開催します。令和7年度はその第2回目を実施しました。

趣 旨：古来より自然を畏怖・畏敬し、その中に身を置いてきた日本人は、二十四節気と七十二候という伝統的な暦をもっていた。光や空気、水の違いを感じ、季節毎の動植物の特徴等を観察していた日本人の感性は、伝統野菜・園芸・果樹、華道、茶道、和歌、俳句等にも展開し、雅と鄙・わびさびという形態、精神文化まで発展した。西欧化により薄れてしまったものは何か、日本人の自然観を探る。

日 時：令和7年11月28日(金) 午後1時～3時30分

場 所：イイノホール(東京都千代田区)

主 催：「人・自然・生命」シンポジウム実行委員会  
(当協会、(公社)2027年国際園芸博覧会協会ほか)

協 力：一般社団法人花いけジャパンプロジェクト、正則学園高等学校花いけ男子部

後 援：農林水産省、国土交通省、環境省、神奈川県、横浜市

参加者：約300名

次 第：開会挨拶 栗田卓也 (公財)国際花と緑の博覧会記念協会理事長

基調講演① あん・まくどなると 上智大学教授

基調講演② 落合陽一 メディアアーティスト

パネルディスカッション

コーディネーター 涌井史郎 GREEN×EXPO ラボ チェアパーソン

パネリスト あん・まくどなると 上智大学教授

落合陽一 メディアアーティスト

西村明美 柗家六代目女将

湯浅浩史 (一財)進化生物学研究所理事長兼所長

GREEN×EXPO 2027の紹介

見宮美早 (公社)2027年国際園芸博覧会協会サステナビリティ推進部長

閉会挨拶 河村正人 (公社)2027年国際園芸博覧会協会事務総長



アンケートより集約

「多角的で非常に興味深い」「自然観を改めて考えさせられた」「異なる分野の視点が融合していて面白い」など、講演内容の充実度を評価する声が多く、「伝統とテクノロジーの融合が印象的」「日本人の自然観や文化の魅力を再認識できた」との感想も寄せられました。さらに、「EXPO2027が楽しみ」「花博に行きたい」「今後の展開に期待している」など、横浜国際園芸博覧会への関心や来場意欲の向上につながる前向きな意見が多数見られました。

## 2025年度事業実績

### 普及啓発・国際交流事業

#### 国際博覧会への協力

令和7年7月24日(木)・25日(金)、大阪・関西万博会場内で実施された「体験！発見！未来OSAKA」(大阪市建設局主催)に協力し、花ずきんちゃんの出演とミニタオル(花ずきんちゃんとミャクミャクのコラボデザイン)の配布を行いました。



令和8年2月26日(木)、大阪・関西万博のモナコ公国パビリオンに展示されていたオリーブの木の寄贈を受けた大阪市の依頼にて、鶴見緑地で開催された記念銘板除幕式に花ずきんちゃんの出演を行いました。



令和8年3月20日(金)・21日(土)、鶴見緑地内「花博記念ホール」にて実施した「関西はGREEN×EXPO2027を応援するデー」に共催し、花の万博展示や花ずきんちゃんの出演を行いました。



#### 4. その他の普及啓発

花の万博の理念の普及・啓発のため、各事業の広報等を実施しました。また、各種団体が実施する行催事等に協賛、後援等を行いました。

#### 後援等一覧

● 催事名(開催時期)	● 開催場所	● 主催	● 名義等
令和7年度大阪府立花の文化園「幼児・小中学生花の絵画展」(R8.1.4～2.8)	大阪府立花の文化園イベントホール(大阪府河内長野市)	大阪府、大阪府立花の文化園	後援 会長賞
緑の講演会「都市の緑と生物多様性」(R7.6.28)	京都経済センター 6-F(京都市下京区) WEB開催	一般財団法人日本造園修景協会京都府支部	後援
水都おおさか森林(もり)の市2025 (R7.10.26)	桜ノ宮合同庁舎・毛馬桜之宮公園周辺(大阪市北区)	水都おおさか森林づくり・木づかい実行委員会	後援
第57回ハンギングバスケット展 (R7.9.30～10.13)	咲くやこの花館エルフガーデン(大阪市鶴見区)	鶴見緑地スマイルパートナーズ、咲くやこの花館	後援 会長賞
第80回日本おもと名品展 (R7.11.22～11.23)	上野グリーンクラブ(東京都台東区)	日本おもと協会	後援 会長賞
令和7年度「都市緑化月間」(R7.10.1～10.31)	全国	国土交通省、都道府県、市町村	協賛
万博記念公園日本庭園文化財登録記念「国際社会における日本庭園の価値と役割を考えるフォーラム」(R7.11.1)	大阪府立労働センター(エルおおさか)南ホール(大阪市中央区)	大阪府(担当部署:日本万国博覧会記念公園事務所緑地課)	後援
令和7年度第45回伝統庭技研修会 (R7.11.27～11.28)	梅小路公園緑の館(京都市下京区)	一般財団法人日本造園修景協会	後援
日本フラワーデザイン大賞2025 (R7.12.5～12.13)	NFD花ファッションハウス(東京都港区)	公益社団法人日本フラワーデザイナー協会	会長賞
小品盆栽フェア第34回春雅展 (R8.3.27～3.29)	花博記念公園鶴見緑地内ハナミズキホール(大阪市鶴見区)	公益社団法人全日本小品盆栽協会	後援 会長賞
私のランドスケープ (R8.2.14)	京都経済センター 6-F(京都市下京区) WEB開催	一般財団法人日本造園修景協会京都府支部	後援
第58回ハンギングバスケット展 (R8.4.7～4.19)	咲くやこの花館エルフガーデン(大阪市鶴見区)	鶴見緑地スマイルパートナーズ、咲くやこの花館	後援 会長賞



令和7年度大阪府立花の文化園  
「幼児・小中学生花の絵画展」



第80回日本おもと名品展



水都おおさか森林(もり)の市2025

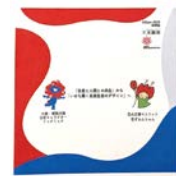
### 情報誌の刊行

「自然と人間との共生」に関わる話題を発信する協会情報誌『KOSMOS』の16号、17号を刊行しました(各2,000部)。両号は、「日本人の自然観」シリーズの第2巻と3巻で、「日本人の作法～伝統園芸、果樹、野菜～」および「供犠と供養～草木塔の思想～」をテーマに、「自然科学」「人文・社会科学」の視点から、対談やコラムを掲載しました。



### ノベルティ

中期計画の広報戦略に基づく、協会名の浸透とブランディングを目的に、ノベルティを製作しました。



### 情報の提供等

今後開催が予定されている博覧会や各種イベント等の主催者に対し、博覧会や協会事業情報、写真の提供等を行いました。

海外・国・地方自治体等	14件
企業・個人	16件

## 調査研究・資料収集事業

### 花の万博や共生に係る講義等

令和7年7月11日(金)	関西大学総合情報学部にて「花の万博とその効果」と題し、講義しました。
11月27日(木)	梅小路公園開催の伝統庭技研修会にて「みどりの効能」について講義しました。
7月29日(火)	韓国啓明大学生態造形学科学士の来協に際し「花の万博とレガシー」について講義しました。
令和8年1月24日(土)	鶴見緑地内「花博記念ホール」にて(一社)フラワーズサイエティ開催の「ブルーミングフォーラム」で講演並びに2027年国際園芸博覧会職員との対談を行いました。
3月5日(金)	国際シンポジウム「生物多様性へのアクションによるネイチャーポジティブ社会の実現」パネルセッションコーナーにて、生物多様性に係る協会事業の紹介パネルを出展しました。

## 組織運営

### 理事会 令和7年度開催実績

	●開催日	●場 所	●議 題
第124回理事会	令和7年 6月11日(水)	ステーションコンファ レンス東京 (東京都千代田区)	令和6年度事業報告及び収支決算について 定時評議員会の招集について 評議員会に提出する評議員候補者(案)について 評議員会に提出する理事候補者(案)について 評議員会に提出する監事候補者(案)について 顧問、参与の選任について
第125回理事会 (決議の省略)	令和7年 6月26日(木)	————	会長(代表理事)、理事長(代表理事)、専務理事(業務執行 理事)の選任について
第126回理事会	令和7年 7月15日(火)	ステーションコンファ レンス東京 (東京都千代田区)	2025年(第32回)コスモス国際賞受賞者の決定について
第127回理事会 (決議の省略)	令和7年 12月18日(木)	————	特定資産の取崩しについて 臨時評議員会の招集について
第128回理事会	令和8年 3月17日(火)	ステーションコンファ レンス東京 (東京都千代田区)	特定資産の取崩しについて 令和8年度資産運用方針書について 令和8年度事業計画及び収支予算について 特定資産の保有について 特定費用準備資金の保有について 助成事業審査委員会委員の選任について 役員賠償責任保険の加入及び法人の保険料負担について 臨時評議員会の招集について

### 評議員会 令和7年度開催実績

	●開催日	●場 所	●議 題
第69回評議員会	令和7年 6月26日(木)	ハービスPLAZA (大阪市北区)	令和6年度事業報告及び収支決算書類の承認について 評議員の選任について 理事の選任について 監事の選任について
第70回評議員会 (決議の省略)	令和8年 1月16日(金)	————	特定資産の取崩しについて
第71回評議員会 (決議の省略)	令和8年 3月31日(火)	————	特定資産の取崩しについて

第7回アドバイザリー会議 中期計画の検証のため、有識者による第7回アドバイザリー会議を開催しました。

日時：令和7年9月30日(火) 午後3時～4時

場所：ホテルグランヴィア京都

アドバイザリーメンバー：後藤祐一 (株)日商社代表取締役社長兼CEO、田中充 (公財) 古都飛鳥保存財団常務理事  
湯本貴和 京都大学名誉教授

## 令和7年度決算

貸借対照表 令和8年3月31日現在

単位:円

科 目	当年度	科 目	当年度
<b>I 資産の部</b>		<b>II 負債の部</b>	
1.流動資産		1.流動負債	
現金預金	102,479,342	未払金	16,528,955
未収収益	107,203,835	預り金	598,943
流動資産合計	209,683,177	賞与引当金	2,775,990
2.固定資産		流動負債合計	19,903,888
(1)基本財産		2. 固定負債	
基本財産定期預金	860,000,000	退職給付引当金	24,568,700
基本財産投資有価証券	29,400,000	固定負債合計	24,568,700
基本財産普通預金	600,000	負債合計	44,472,588
基本財産合計	890,000,000	<b>III 正味財産の部</b>	
(2)特定資産		1.指定正味財産	
記念基金	9,327,476,700	寄付金	10,000,000,000
退職給付引当資産	24,568,700	基本財産運用益	90,000,000
国際園芸博覧会出展事業積立資産	30,000,000	特定資産運用益	800,000,000
法人運営安定化資産	30,000,000	特定資産評価差額金等	△672,523,300
特定資産合計	9,412,045,400	指定正味財産合計	10,217,476,700
(3)その他固定資産		(うち基本財産への充当額)	(890,000,000)
什器備品	8	(うち特定資産への充当額)	(9,327,476,700)
その他固定資産合計	8	2. 一般正味財産	249,779,297
固定資産合計	10,302,045,408	(うち基本財産への充当額)	(0)
資産合計	10,511,728,585	(うち特定資産への充当額)	(60,000,000)
		正味財産合計	10,467,255,997
		負債及び正味財産合計	10,511,728,585

正味財産増減計算書 令和7年4月1日から令和8年3月31日まで

単位:円

科目	当年度	科目	当年度
I 一般正味財産増減の部		会議費	301,912
1. 経常増減の部		旅費交通費	1,643,220
(1) 経常収益		通信運搬費	296,152
基本財産運用益	4,256,467	消耗什器備品費	109,021
基本財産受取利息	4,256,467	消耗品費	345,193
特定資産運用益	280,874,972	印刷製本費	6,435
記念基金受取利息	280,374,972	光熱水料費	1,310,858
記念基金投資有価証券償還益	500,000	役務費	62,007
受取寄付金	3,000,000	委託費	1,600,533
受取寄付金	3,000,000	賃借料	1,487,621
経常収益計	288,131,439	使用料	516,342
(2) 経常費用		保険料	91,488
事業費	195,261,258	諸謝金	107,700
役員報酬	8,829,856	租税公課	1,827
給与手当	35,438,057	支払負担金・会費	500,550
法定福利費	6,132,946	支払手数料	121,198
退職給付費用	2,251,301	雑費	22,987
賃金	1,007,400	経常費用計	244,316,388
職員厚生費	118,315	当期経常増減額	43,815,051
会議費	4,372,625	2. 経常外増減の部	
旅費交通費	5,901,485	(1) 経常外収益	
通信運搬費	1,252,140	経常外収益計	0
広告費	158,992	(2) 経常外費用	
消耗什器備品費	280,534	経常外費用計	0
消耗品費	1,752,910	当期経常外増減額	0
印刷製本費	611,419	当期一般正味財産増減額	43,815,051
光熱水料費	3,058,669	一般正味財産期首残高	205,964,246
役務費	146,636	一般正味財産期末残高	249,779,297
委託費	45,415,177	II 指定正味財産増減の部	
賃借料	3,672,141	受取寄付金	3,000,000
使用料	3,962,540	受取寄付金	3,000,000
保険料	213,472	基本財産運用益	4,256,467
諸謝金	8,670,425	基本財産受取利息	4,256,467
租税公課	14,263	特定資産運用益	280,874,972
支払負担金・会費	9,425,776	記念基金受取利息	280,374,972
支払助成金	8,237,799	記念基金投資有価証券償還益	500,000
支払手数料	349,297	特定資産評価損益等	△147,667,500
顕彰賞金	43,663,400	記念基金投資有価証券評価損益等	△147,667,500
雑費	323,683	一般正味財産への振替	△288,131,439
管理費	49,055,130	一般正味財産への振替	△288,131,439
役員報酬	3,784,224	当期指定正味財産増減額	△147,667,500
給与手当	29,075,631	指定正味財産期首残高	10,365,144,200
法定福利費	5,685,537	指定正味財産期末残高	10,217,476,700
退職給付費用	1,885,599	III 正味財産期末残高	10,467,255,997
職員厚生費	99,095		

## 財団の概要(令和8年3月31日現在)

名称	公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会 The Commemorative Foundation for the International Garden and Greenery Exposition,Osaka,Japan, 1990
設立趣旨	1990年に開催された国際花と緑の博覧会の基本理念を永く継承、発展させるため、国際花と緑の博覧会記念基金を設け、自然と人間との共生に関する諸事業を行い、もって潤いのある豊かな社会の創造に寄与しようとするものである。
設立年月日	1991年(平成3年)11月1日
公益法人移行日	2013年(平成25年)4月1日
所在地	〒538-0036 大阪市鶴見区緑地公園2番136号

### 評議員 令和8年3月31日現在(50音順)

評議員	小栗邦夫	(公財)日本農林漁業振興会常務理事
評議員	加藤利男	(一財)高齢者住宅財団理事長
評議員	金田章裕	(大)京都大学名誉教授
評議員	佐藤友美子	(学)追手門学院理事
評議員	平匠子	(特)日本放送協会理事・大阪放送局長
評議員	高橋徹	大阪市副市長
評議員	土井元章	(大)京都大学名誉教授
評議員	羽田光一	(公社)日本家庭園芸普及協会顧問
評議員	正木啓子	(公社)土木学会名誉会員
評議員	増田昇	(大)大阪府立大学名誉教授
評議員	松下正幸	(公財)松下幸之助記念志財団理事長
評議員	森岡武一	大阪府副知事
評議員	吉田昌功	大阪商工会議所副会頭

### 役員 令和8年3月31日現在(50音順)

会長	御手洗富士夫	(一社)日本経済団体連合会名誉会長
理事長	栗田卓也	元国土交通事務次官
専務理事	片山博昭	常勤
理事	柴田道夫	(大)東京大学名誉教授
理事	武内和彦	(公財)地球環境戦略研究機関理事長
理事	本間和枝	(公財)宇治市公園公社顧問
理事	森本幸裕	(大)京都大学名誉教授
理事	和田新也	(一社)日本造園建設業協会会長
監事	北山諒一	公認会計士
監事	崎元利樹	(公財)関西-大阪21世紀協会理事長

### 顧問 令和8年3月31日現在(50音順)

顧問	今井敬	(一社)日本経済団体連合会名誉会長
顧問	牧野徹	アイング(株)最高顧問
顧問	三井康壽	政策研究大学院大学特別講師

### 参与 令和8年3月31日現在(50音順)

参与	青木保之	(学)東洋女子学園理事
参与	佐々木正峰	(独)国立科学博物館顧問
参与	須磨佳津江	キャスター・ジャーナリスト
参与	中村桂子	JT生命誌研究館名誉館長
参与	畑中孝晴	(一社)プリザーブドフラワー全国協議会代表理事
参与	波多野敬雄	(学)学習院名誉院長
参与	ルイ・サトウ	在仏建築家

### 協会事務局 (TEL:06-6915-4500、FAX:06-6915-4524)

#### 〈担当業務〉

- ◆総務部 (TEL:06-6915-4500)  
〈管理運営、評議員会・理事会関係、予算・決算、資産運用等〉
- ◆企画事業部 (TEL:06-6915-4516、4513)  
〈顕彰事業、助成事業、普及啓発、国際交流、フォーラム、セミナー、調査研究、資料収集等〉

## 顕彰事業

### 1. 2026年(第33回)「コスモス国際賞」

国際花と緑の博覧会(以下「花の万博」という。)の「自然と人間との共生」という理念に合致する研究活動や業績を顕彰し、永く記念するため2026年(第33回)「コスモス国際賞」事業を実施します。

令和8年度は、2026年の受賞者選考及び決定に加え、2027年の選考準備を行います。2026年の受賞者は7月中旬に決定し、10月に授賞式を開催します。

### 2. BIEコスモス賞

博覧会国際事務局(BIE)が実施し、当協会が協力する「BIEコスモス賞」については、「2027年国際園芸博覧会(横浜市)」にて顕彰すべく、募集、広報等の実施及び1次選考通過団体の展示を同会場にて行う。

### 3. 全国花のまちづくりコンクール

花の万博を契機に、「花とみどりの国づくり及びまちづくり」を目的として創設された「花のまちづくりコンクール」について、推進協議会に参画し、実施します。

## 助成・協働事業

### 1. 花博自然環境助成

花の万博理念の継承発展及び普及啓発に資する「調査研究」、「活動・行催事」の助成を実施します。

### 2. 高校生Green Action 助成

地域における花や緑、自然保護等の活動を行う高校生の活動(部・同好会等)に対し、助成を実施します。

## 普及啓発事業及び国際交流事業

### 1. 次世代育成事業

協会事業に関係する学者、知識人等を講師として小学校へ派遣する「小学校講師派遣事業」については、引き続き対面及びオンラインにより実施すると共に、協会YouTubeチャンネル「花博チャンネル」に同様の動画を配信します。

また、若年層をはじめとした年代に、コスモス国際賞受賞者の業績を波及させるため、「コスモス国際賞受賞者漫画読本」の発刊を進めます。

さらに、全国の高校生が地域の自然や生業を調査、撮影するコンテスト「全国高校生「地域の自然」甲子園(通称:ネイチャー甲子園)」を引き続き実施します。

### 2. 都市緑化推進運動等への協力事業

都市公園の整備、民有地の緑化により都市における豊かな生活環境の実現を目的とする「都市緑化推進運動」、及び住民参画のもと創意・工夫を生かしたまちづくり推進を目的に実施される「まちづくり月間」に協力します。

### 3. 普及啓発事業

花の万博開催の地元である大阪で開催される「おおさか都市緑化フェア」や「はならんまん」などの普及啓発イベントに協力すると共に、みどりのまちづくりに貢献する美しい景観を表彰する「みどりのまちづくり賞」に参画します。

また、情報発信については、「コスモス国際賞受賞記念講演会」を開催し、情報発信に努める他、情報誌『KOSMOS』の刊行を引き続き行うと共に協会ホームページの充実を図ります。また、協会諸事業の動画や告知等の情報を、SNSに配信し、露出を図ります。

また、花の万博資料や当協会の蓄積情報のアーカイブとしてのデータベース化を引き続き進めます。

さらに、中期計画に掲げる、他団体との連携・協働の推進として、公益社団法人日本植物園協会、公益社団法人日本動物園水族館協会との共催による「自然と人間との共生フォーラム」を引き続き実施します。

### 4. 国際交流事業

2027年に横浜で開催される国際園芸博覧会について、情報提供を行うと共に、同博覧会協会等との共催により令和6年度より実施している「人・自然・生命」シンポジウムの第3回目を、2026年の国際園芸学会議(IHC2026)開催に併せて8月に京都にて開催します。

## 調査研究・資料収集事業

公益社団法人日本植物園協会、公益社団法人園芸文化協会が行うセミナー、シンポジウムに参画し、実施します。



公益財団法人 国際花と緑の博覧会記念協会

〒538-0036 大阪市鶴見区緑地公園2番136号

TEL.06-6915-4500 FAX.06-6915-4524

<https://www.expo-cosmos.or.jp/>

表紙の写真 「バンクシア」

2025年(第32回)コスモス国際賞受賞者デービッド・A・キース博士のご出身であるオーストラリア原産の樹木で、博士が大学で初めて取り組んだ研究課題のテーマでもありました。

写真は、授賞式用のコサージュ、ブートニアとして制作したものです。

